

日光医療センター通信

～いろは～



獨協医科大学日光医療センター
Dokkyo Medical University Nikko Medical Center

2015.10 第27号



小田代が原の貴婦人（栃木県日光市）

主な内容

診療紹介（整形外科）	2
部門紹介（医療安全推進部）	3
新設室紹介	4
マンモグラフィ検診施設認定紹介	4
栃木県・小山市総合防災訓練	5
旬を食べよう／求人情報	6



診療紹介 シリーズで当センターの診療内容についてご紹介いたします。

▶ 整形外科

【特徴・特色】

手（上肢）や足（下肢）、背骨（脊椎）といった人の動く器官を運動器といいます。整形外科はこの運動器を治療対象とする診療科です。近年、我が国は世界に類を見ない速度で高齢化が進んでおり、平成26年時点での65歳以上の割合は約26%となっています。高齢者に多い腰痛、膝痛、肩痛、骨がもろくなる骨粗鬆症が原因で発生する脊椎、足の付け根（大腿骨近位部）、手首（橈骨遠位端）の骨折なども急激に増加しており、整形外科の重要性がますます認識されてきています。



整形外科スタッフ

【診療体制・診療の特徴】

診療体制：肘関節、手および先天異常は手外科専門医の長田（科長、教授）が担当し、肩、膝、足関節およびスポーツ疾患は関節外科専門医の矢野講師（医長）が担当しています。脊椎は脊椎外科専門医の司馬医師が担当し、整形外科全般の外傷を中心に山本医師が活躍しています。また、非常勤としてリウマチを黒田非常勤講師、股関節を富沢講師、膝関節およびスポーツ疾患を吉川医師が診療しています。

診療の特徴：当科では整形外科の疾患はほぼ全てカバーしていますが、特に力を入れている治療を紹介します。

肩関節では肩腱板損傷、反復性肩関節脱臼に対して小さな傷で治療のできる関節鏡下手術を行っています。また、投球肩などのスポーツ障害に対しては投球フォーム指導を含めたりハビリテーションも積極的に行っています。肘関節では野球少年に多い上腕骨離断性骨軟骨炎に対する骨切り術、骨・軟骨移植術、尺骨神経麻痺である肘部管症候群に対する神経剥離術等を行っています。手部では三角繊維軟骨複合体損傷に対する関節鏡下手術、ばね指などの腱鞘炎の手術、正中神経麻痺である手根管症候群に対する神経剥離術、母指対立再建術、母指CM関節症に対する骨切り術等を行っています。股関節では変形性股関節症に対する人工股関節置換術、膝関節は前十字靭帯損傷、半月板損傷に対する関節鏡下再建術、縫合術、変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術等を行っています。脊椎は頸椎症性脊髄症、後縦靭帯骨化症に対する椎弓形成術、腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術、椎体固定術等を行っています。

骨粗鬆症が原因で高齢者に多発する骨折は大腿骨頸部・転子部骨折、上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折、脊椎圧迫骨折です。脊椎以外では手術が必要な骨折がほとんどで、積極的に人工骨頭置換術や骨接合術を行っています。特に、橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定法は世界中で行われている最も一般的な手術治療法ですが、その治療用骨接合プレートを獨協医科大学で開発し、全国の医療施設で使用していただいています。当科は本骨折治療の日本のみならず世界におけるトップランナーとしての実績があります。また、脊椎圧迫骨折後の後弯変形に対して経皮的椎体形成術（バルーンカンプラスティ）も症例を選んで行っています。



当科で開発した橈骨遠位端骨折用の最新型掌側ロッキングプレート（全ての体格に対応する大、中、小の3つのサイズバリエーション）

部門紹介 シリーズで当センターの各部門をご紹介します。

▶ 医療安全推進部

日光医療センター開院時から医療安全部として、院内における安全の提供を主軸として活動しており、平成26年6月に感染制御部設立時に、医療安全推進部という新たな名称となりました。

医療安全推進部の役割は、名称からもわかりますように、病院内で起きた、または起こりうる危険に関して、アンテナを高く持ち部署と一緒に対策を検討、実施、評価しています。その一つとして安全パトロールを実施しています。安全パトロールとは、院内のリスクマネージャーがチームを組み、各部署の状況を自分の目で見て、その部署でのやり方を直接確認する方法でやり取りを行い、危険と思われるもの・箇所等に関してチェック、指導を行う活動です。また、院内の職員のみでのチェックだけではなく、平成24年度からは私立医科大学病院相互ラウンドに参加し、岩手医科大学附属花巻温泉病院、埼玉医科大学国際医療センター、日本医科大学多摩永山病院と訪問を受ける、訪問する活動を実践し、平成27年度は東邦大学医療センター佐倉病院実施予定です。他施設から訪問を受ける、他施設を訪問することで相互に安全を高め合っています。

「井の中の蛙、大海を知らず」ということわざがあるように、自分の所だけ見ていては発展も、安全も確保できません。他者が入ることで自部署の良いところ、不足しているところが見えてきます。良いところは継続して、不足を補い、それを繰り返し実践、指導している部署が医療安全推進部です。

当センターを利用されている、患者様、ご家族様、ご面会等で来院された皆様が、安全な環境の中で安心して治療が受けられるよう頑張っています。そして、もちろん院内の職員の安全も守っていただけるよう奮闘しています。皆様のご意見を取り入れながら、今後も活動していきますので、ご協力をお願い致します。



シリンジポンプの表示を工夫しました



トイレ入口の段差を平坦にしました



医療安全スタッフによる視察



各部署の安全をチェックしています

新設室紹介

平成27年7月1日に言語聴覚室が開設しました。言語聴覚士は、脳卒中後の失語症や発声などの障害により、「聞いて理解する」「話す」「読み書き」等の言葉によるコミュニケーションが難しくなった方に対し、専門的に訓練や指導を行っています。同時に、言葉によるコミュニケーションには、記憶や集中力など脳の複雑な働きが大きにかかわってくるため、必要に応じて訓練も行っています（摂食嚥下機能障害）。また、食べものを食べたり飲んだりすることが難しくなった方に対し、訓練や指導を行っています。コミュニケーションや食事をとるという行為は、何より当事者である患者様の意欲に大きくかかわっており、家族や医師・看護師等の病院スタッフとの協力・支援が必要となります。言語聴覚療法室に訪れた患者様が笑顔になれるよう、皆様の協力を得て支援していきますのでよろしくお願いいたします。



マンモグラフィ検診施設認定紹介

近年、日本人女性のがんの罹患率 第1位は乳がんです。乳がん発生は、20歳過ぎから認められ、40代から50代がピークです。また、乳がん罹患数は年々増加傾向にあり、いまや12人に1人が乳がんにかかるといわれています。定期的に乳がん検診を受け早期発見することが大切です。

当院では平成19年6月「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得、今年9月に認定を更新しました。マンモグラフィとは、乳房のX線撮影のことで「NPO法人 日本乳がん検診精度管理中央機構」により3年毎の更新が義務付けられています。施設画像認定は、より精度の高いマンモグラフィ撮影のため、検診に必要とされる基準をすべて満たした施設を認定施設とするものです。

早期発見のためにも、マンモグラフィ検診を受けましょう。



旬を食べよう

柿 東アジア地方が原産とされ、日本では奈良時代には渡来しており平安時代には干し柿が作られていたようです。

柿には「甘柿」と「渋柿」がありますが、違いは渋み成分の「タンニン」が口の中で溶けるかどうかで決まります。溶けると渋く感じ、溶けなければ甘く感じます。熟すにつれてタンニンが水に溶けにくくなります。

渋柿が甘くなるのはアルコールや炭酸ガスを使って処理することでタンニンを可溶性から不溶性に変化させているからです。

なお、干し柿にすると渋みは自然に抜けます。

《 栄養 》

ビタミンC、βカロテン、カリウム、タンニンなどがあります。

- ビタミンCは日本人が良く食べる果物の中でトップクラスの量です。

風邪予防や美肌効果に期待できます。

- 柿のオレンジ色には抗酸化作用のあるβカロテンのほか、同じカロテノイドの一種でβクリプトキサンチンが多く含まれていて発ガン抑制作用があるといわれています。

- 渋み成分のタンニンはアルコールを分解する作用があり、さらにカリウムは利尿作用があり酸化還元作用のあるビタミンCの相乗効果で二日酔いにも効果があります。

なおタンニンは血圧の上昇を抑える効果もありますが、一方で鉄分の吸収は妨げられてしまうため、貧血気味の人は食べ過ぎに注意しましょう。

《 選び方、保存方法 》

- ヘタがきれいで果実との間に隙間がないもの。
- 果皮がしっとりして張りがあり、全体的に色づいているもの。また持ったときに重みがあるものを選びましょう。
- ポリ袋に入れて冷蔵庫の野菜室で保存すれば一週間ほど持ちますが、室温だと二日ほどでやわらかくなります。柿は追熟の必要が無いので購入したら早めに食べましょう。

《 おすすめの食べ方 》

- 和え物、サラダで。

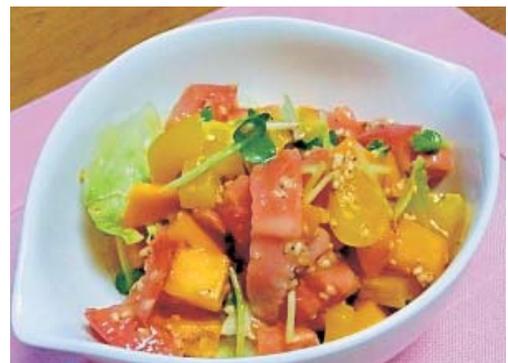
きゅうり、りんご、フルーツ缶、さつま芋などはもちろん、生ハムなども合います。

白和えや甘酢、みぞれ酢、マヨネーズ、ドレッシング、クリームチーズ、ごまなどと和えて。

- やわらかくなった柿はそのまま凍らせてシャーベットで。

皮と種を除きホットケーキのタネに混ぜ込んで焼く。

- 干し柿はチーズとあわせ餃子の皮で包み揚げる。



栃木県・小山市総合防災訓練

来る平成27年8月30日、小山市の石ノ上河川広場にて「栃木県・小山市総合防災訓練」が実施され、当センターから災害派遣医療チーム、通称DMAT（ディーマツト）が参加しました。各機関から集まったおよそ1,400名で取り組んだこの訓練は、栃木県南部で震度7の地震が発生したという想定のもと、様々な分野で災害が起きてからの対応を総合的に訓練する目的で行われました。私たちDMATは主に救護所テント内で、倒壊した建物や事故現場から運ばれた傷病者を初期治療し、他の医療機関のDMATや消防・自衛隊と連携してヘリなどで病院へ搬送するといった訓練内容でした。

当センターでは来年度までに災害時の医療を担う災害拠点病院の指定を目指しており、その一環としてDMATを結成しました。DMATは1チーム5人が基本であり、当センターのDMATは医師1名、看護師2名、業務調整員2名で構成されています。今後も有事の際などに地域に貢献できるように、訓練に取り組んでいきたいと思えます。



当センターと一緒に働いてみませんか？

平成28年度採用 看護職員募集中

詳細なお問い合わせは下記まで
TEL 0288 - 76 - 1515 (内線270) 看護部

※平成27年度採用についても随時対応いたします。

編集後記

日中も過ごしやすくなり秋本番を迎えました。爽やかな秋を楽しみつつ、夏が去った寂しさも感じる今日この頃です。この夏、皆様はどう過ごされましたか？私は8月の末、千葉へ研修に行ってきました。鉄道とバスを使っての往復でしたが、なんと日光と北千住の往復は、黄金色？のスペースアで、気分はルンルン！！しかし、何十年ぶりかであるバスは緊張し、Suicaなどのマネーカードが今やバスでも主流になっている事に驚き、文明に取り残されたかと焦りました。(-_-) 時には、交通機関を利用してのお出かけも社会勉強に必要と痛感した次第です。電車とバスの中は、落ち着かずきよきよしてましたが、高齢な方、乳幼児を連れのお母さんへ席をゆずる姿をどこでも見ました。人間関係が希薄と言われながらも、「捨てたもんじゃない、日本！！」と暖かな気持ちになりました。この秋皆さんも、時には鉄道・バスを利用して出かけてみませんか？ステキな何かが発見できますよ！！ (K・S)

日光医療センター通信 ～いろは～ 第27号

〒321-2593 栃木県日光市高徳632番地 TEL 0288-76-1515(代表) FAX 0288-76-1611

<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/indexj.html>

発行年月日／平成27年10月★日

編集・発行／獨協医科大学日光医療センター広報委員会

印刷／(株)松井ピ・テ・オ・印刷

携帯サイトはこちら

<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/i/>
または、右記のQRコードを読み取り
アクセスして下さい。

